

実績報告書

届出者	住所	東京都港区芝浦1丁目2番1号 シーバンスN館	氏名	富士通エフ・アイ・ピー株式会社 代表取締役社長 米倉 誠人
特定事業者の主たる業種		39情報サービス業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>データセンター機能を基盤に、ソーシングサービスとして、「アウトソーシング」、「クラウド」、「ソリューション」の3つのサービスを提供しています。</p> <p>企画から設計、開発、移行、運用、保守まで、システムのライフサイクルを支援（LCMサービス）し、お客様に安心・安全で、高品質かつ高コストパフォーマンスのICTサービスを提供しています。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	7,638 t-CO ₂	211 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	9,007 t-CO ₂	249 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	5.7 %	3.6 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	5.7 %	5.5 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (IT機器エネルギー使用量に相当するCO₂排出量)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

データセンターでは、事業伸長に応じてエネルギー使用量増加が見込まれ、基準年(平成25年度)は、対前年比117%の増加であった。
目標年度のエネルギー使用量は、上記の基準年の伸長率で目標年度まで増加すると想定した値とする。

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

富士通(株)と富士通エフ・アイ・ピー(株)は、データセンターサービス事業の効率化と運用品質向上を目指し、組織統合・再編を実施。それに伴い、2015年10月よりデータセンター(関西支社分室第一、第二)のファシリティ部分を富士通(株)へ移管した結果、電気使用量の実績値が大幅に減少。削減目標に対する達成状況については報告が困難なため、電気使用量の実績報告のみとさせていただきます。
(2016年5月25日 温暖化対策グループ ご担当者様と打合せ済)

昨年度より当社としては条例の対象外の事業所となりましたが、本年度は計画期間中につき昨年同様当社区画電気使用量の実績報告のみ行います。(本年度提出する報告が計画最終年度となります)

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

当社では1999年度に単独認証を受け、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムの構築・運用に対し、継続的な改善に取り組んでいます。
 2004年度以降は、富士通グループの統合環境マネジメントシステムへ参加し、グループの一員として統合認証されています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	関西支社分 室 (第一) 関西支社分 室 (第二)	コード (1122) 空気調和設備 の改善	冷暖房の温度設定を夏場は28度、冬場 は20度と固定する運用を行っており、 平成26年度以降も継続し運用する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	関西支社分 室 (第一) 関西支社分 室 (第二)	コード (1215) 冷凍・冷蔵設 備の導入	高効率空気調和設備の導入を推進 ・冷暖分離カーテンの導入 ・室外機対策(散水・庇)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	関西支社	コード (1218) 照明設備の導 入	受付およびセミナールームの天井照明を 蛍光灯ではなく、LED照明を使用	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	関西支社分 室 (第一) 関西支社分 室 (第二)	コード (1215) IT機器の改善	仮想化技術適用によりIT機器 (サーバ 機) の台数削減を推進する	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策

--	--	--	--	--	--

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市城東区森之宮2-3-11	氏名	扶桑薬品工業株式会社 代表取締役社長 戸田 幹雄
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に医療用医薬品の製造、販売を行っており、大阪府内には本社事務所、工場2ヶ所、研究開発センター、支店などがあります。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	6,865 t-CO ₂	5,891 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	7,409 t-CO ₂	6,359 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	12.4 %	14.4 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	12.1 %	14.1 %	14.2 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>最終年度で14.2%の削減率となりました。 主な事業所である城東工場では、前年度と比べ空調機の運用方法変更等により、CO2排出量が増えました。 しかしながら、この増分を他の事業所が削減した事により、全体ではほぼ前年度と同じ削減率となっております。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

省エネ法に基づいて定めたエネルギー管理体制により、全社的に省エネルギー、及び温室効果ガス排出抑制に取り組んでいます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱 平準化				
1	レ	GHG排出	城東工場 研究開発センター	コード (1126) ポンプの回転 数制御	城東工場の冷却水ポンプにインバータ制御を平成26年度に導入済。研究開発センターの温水ポンプのインバータ制御は平成29年度以降に延期するが、追加対策でH28年度に冷水ポンプのインバータ制御を平成26年度に導入済。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	城東工場 本社事務所 研究開発センター	コード (1299) 変圧器の更新	変圧器を省エネ効果の高い機器に更新する。H26年度に計画の約50%、H27年度に約40%、H28年度に約10%をを更新済。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大東工場	コード (1215) 製造機械の更新	H26年度にPTP小分け機・包装機を更新済。	26 年度 ～ 26 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大東工場	コード (1218) 照明設備の更新	H26年度に白熱灯(12台)、蛍光灯型避難誘導灯(52台)をLED照明に更新済。H27, 28年度に実施予定であったHf蛍光灯及び器具の交換は、計画内容を変更しH29年度以降に延期する。	26 年度 ～ 26 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大東工場 研究開発センター	コード (1216) 冷凍機の更新	H26年度に大東工場の冷凍機(4台)を更新済。H27年度に研究開発センターの水冷式チラー(1台)を更新済。	26 年度 ～ 27 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	大東工場	コード (4210) 屋根の遮熱・断熱	H26年度に屋根に遮熱・断熱塗装を実施済。	26 年度 ～ 26 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	研究開発センター	コード (1112) デマンド監視装置の導入	H26年度にデマンド監視装置を導入済。	26 年度 ～ 26 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	研究開発センター	コード (1216) 空調設備の更新	H26年度に空調機を更新済。 (1F事務室・学術区域: 3.9t-CO2を削減) (所長室・受付室: 1.2t-CO2を削減) (ミーティングルーム・面会区域: 1.9t-CO2を削減)	26 年度 ～ 26 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	研究開発センター	コード (1216) 空調設備の更新	H26年度に2階区域の空調設備をEHPからGHPに更新済。(10.92t-CO2を削減)	26 年度 ～ 26 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	研究開発センター	コード (1218) 照明設備の更新	蛍光灯照明器具をLED照明器具に更新する。H26年度に40%、H27年度に34%を更新済。H28年度に残り26%を更新済。(3年間で64.81t-CO2を削減)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

11	レ	GHG排出	全事業所	コード(1113) クールビズ、 ウォームビズ、 節電	クールビズ、ウォームビズ及び節電を実施する。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
12	レ	GHG排出	城東工場	コード(1212) 熱交換器の導入	蒸気直噴式の暖房用温水槽を廃止し、熱交換器を使用した温水供給システムに変更する。平成29年度に延期。	0年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
13	レ	GHG排出	城東工場 大東工場 研究開発センター	コード(1216) 空調設備の改修、更新	城東工場(第1工場)の空調設備改修はH29年度に延期。大東工場の空調機PAC6はH27年度、PAC2・11はH28年度に更新済。研究開発センターのAHU(4階実験室1台)はH28年度に更新済。	27年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
14	レ	GHG排出	大東工場	コード(1216) 空調機の更新	品質管理課、微生物試験室エアコンをH27年度に更新済。	27年度 ～ 27年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
15	レ	GHG排出	城東工場	コード(1215) チラーユニットの更新	プリスター包装機冷却用チラーユニットをH28年度に更新済。	28年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
16		GHG排出	城東工場	コード(1199) 空調機の運用改善	調剤課のクリーンルーム縮小に伴う空調機の運用改善。 計画内容の変更により、この項目は取り止めとする。	0年度 ～ 0年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1		GHG排出	コード		年度 ～ 年度
		人工排熱			

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府枚方市長尾峠町15-1	氏名	プライムデリカ株式会社 代表取締役 齊藤 正義
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		惣菜製造業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間															
平成	27	年	4	月	1	日	～	平成	29	年	3	月	31	日	(3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	4,500 t-CO ₂	4,786 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,814 t-CO ₂	5,124 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
		削減率(原単位ベース)	3 %	4 %	-8.1 %
削減率(平準化補正ベース)		-	3.5 %	-4.7 %	-0.1 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産数量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>アイテムの多様化による設備の増設を図ったことでエネルギーの増大につながり温室効果ガス削減目標である3%には至りませんでした。</p>



◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

枚方工場では工場長がリーダーでエネルギー管理員とともに週1回の会議にて省エネを推進しています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1113) 空調設備の屋 内室外機の清 掃	冷、空調設備の屋内屋外機の清掃を実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1113) ガス機器の バーナー清掃	ガス機器のバーナー清掃実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1113) 冷蔵庫の開放 厳禁の指導	冷蔵庫の開放厳禁の指導を実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1113) 生産機械の空 運転防止の指 導	生産機械の空運転防止の指導実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1113) 照明設備の消 灯	照明設備の消灯の徹底	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1113) 空調の温度設 定 (冷房 28℃)	事務所夏場の冷房28℃実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1113) 蒸気配管蒸気 漏れ防止	蒸気配管蒸気漏れ防止	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1113) 冷空調室外機 の散水	冷空調室外機の散水実施	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
9	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1113) BEMS導入	BEMS導入によるデマンド抑制	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度
		人工排熱				～
						年度

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市生野区林寺6丁目7番22号	氏名	フルタ製菓株式会社 代表取締役 古田盛彦
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主たる事業は「食料品製造業」（細分類としてはチョコレートを中心とした「その他パン菓子製造業」）。大阪府内に本社を含む工場3拠点、物流センター1拠点を有し、販売拠点は全国で14箇所（9支店、5出張所）、内1箇所は大阪支店で本社に併設されている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
平成	26	年	4	月	1
			日	～	平成
			29	年	3
			月	31	日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	6,892 t-CO ₂	8,283 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	7,840 t-CO ₂	9,400 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
		削減率(原単位ベース)	5 %	-5.5 %	4.6 %
削減率(平準化補正ベース)		-	-5.3 %	4.6 %	14.9 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (工場生産量)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

当社はチョコレート菓子の製造販売を中心に事業活動を行っていることから、第1期計画(平成23～25年度)では工場生産金額を母数に排出原単位を設定しておりましたが、第2期計画(平成26～28年度)からはより客観的な評価が得られるとの判断から、「工場生産量t」を原単位として設定することと致しました。

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

イ. 第2期計画より「工場生産量t」を原単位として設定しておりますが、27年度からは新工場立上げが寄与し、28年度ではさらに年間を通じて生産が安定したことから、最終年度削減目標率「5%」に対し27年度:「4.6%」、28年度「14.7%」と大幅に上回ることが出来ました。

ロ. しかしながら、総排出量に関しては基準年度に対し最終年度(28年度)20%UP(平準化補正ベースでも同レベル)と不満の残る結果となりました。

ハ. 個別排出抑制策については、3項（2）にその実施進捗状況を記載しております。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

イ. 「省エネ推進責任者会議」：平成28年度4回実施。
 ロ. 「省エネパトロール」：生産設備・空調・照明等稼働状況等の確認を適宜実施。
 ハ. 「省エネ勉強会」：委員長指導下、省エネ推進メンバーを対象に適宜実施。又外部講習会にも参加。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	美原工場	コード(1113) 運転時間の短縮による電気エネルギーの削減	業務用工場 原料タンクの攪拌用モーター運転時間の短縮計画(現在対策保留中) (50-t/年を削減目標) ➡ 未実施(新工場重点投資のため)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	美原工場	コード(1125) 断熱による熱ロスの防止	業務用工場、菓子工場 二重管の放熱対策 (45-t/年を削減目標) ➡未実施(新工場重点投資のため)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	美原工場	コード(5221) 空調設備GHPの高効率機器への更新	菓子工場 GHP(ガスヒートポンプ空調機)の更新(20馬力×5台)(18-t/年を削減目標)(経産省補助金を活用) ➡ H28年度実施済み	28 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1112) 空調温度設定の最適化による電気・ガス使用量の削減(平成24年以降継続運用中) ➡ 実施中		24 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	美原工場	コード(1125) 断熱による熱ロスの防止	菓子工場の原料タンク放熱対策(37t-CO2/年を削減-10基分断熱) ➡未実施(新工場重点投資のため)	27 年度
	レ	人工排熱				27 年度
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	美原工場	コード(1126) 新基準トップランナーモーターへの切り替え	大型冷却水ポンプの更新(トップランナー制度導入による省エネルギー対策-7.5KW以上)(21t-CO2/年を削減) ➡ 未実施(新工場重点投資のため)	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	美原工場	コード(5221) 高効率空調機(EHP)への切り替え	劣化度大のEHP更新によるCOP改善(52t-CO2/年を削減-375HP分) ➡未実施(新工場重点投資のため)	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	美原工場	コード(5221) 高効率コンプレッサーへの切り替え	劣化度大のコンプレッサー更新によるCOP改善(18t-CO2/年を削減)(7.5KW以上合計142.5KW) ➡未実施(新工場重点投資のため)	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	美原工場	コード(5221) 高効率ボイラーへの切り替え	劣化度大の炉筒煙管ボイラー更新によるCOP改善(8t-CO2/年を削減) ➡未実施(新工場重点投資のため)	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG 排出	全ての事業 所	コード (2123) エコドライブ 推進により温 暖化防止を図 る	エコドライブ推進のため定期的社内研修 を実施する ➡ 実施中	23 年度
	レ	人工排熱				28 年度
2	レ	GHG 排出	全ての事業 所	コード (2214) 訂正な運転管 理により燃費 効率を上げる	日常の点検・整備に関するマニュアルの 作成や教育から、車両の適正な維持管理 を行う ➡ 実施中	23 年度
	レ	人工排熱				28 年度

(3) その他の抑制対策
